

都市再生整備計画(第1回変更)

あ ぼ し え き し ゅ う へ ん ち く
JR網干駅周辺地区

ひ ょ う ご け ん ひ め じ
兵庫県 姫路市

令和6年7月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	兵庫県	市町村名	姫路市	地区名	JR網干駅周辺地区	面積	5 ha
計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度				

目標

- 大目標: 姫路市西部の玄関口にふさわしい、快適で賑わいあるJR網干駅周辺の再生
- 目標1: 利便性の高い魅力的な駅前交通結節点づくり
- 目標2: 快適で安心して暮らせる、商業・住宅の調和したまちづくり
- 目標3: 地域の伝統、文化を育む活力あるまちづくり

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)

本市では、姫路駅を中心に各種交通機関や商業・業務機能が集中し、播磨地域における社会経済活動の中心地として発展してきた。しかしながら、モータリゼーションの進展等を背景とした市街地の拡大、少子高齢化に伴う人口減少等を背景に中心市街地の空洞化が進み、低密度な市街地の形成等による都市機能の都市の低下が懸念される。こうしたことから、中心市街地において、姫路駅周辺都市再生整備計画事業、公共が保有する低未利用地を活用した文化交流施設や県立病院と民間病院の統合、手柄山中央公園の再整備により、都市機能の拡散防止及び市民の生活利便性の維持・向上を図る。

一方、既成市街地外縁部の住宅地では、人口減少、居住者の高齢化が顕著であり、人口密度を維持、経済力の維持・強化や地域コミュニティの維持・活性化を図る必要がある。このため、公共交通(駅・バス停)を拠点として、都心部や地域生活圏とのネットワーク化や公共交通網の充実を図りながら、ものづくり力の維持・強化につながる労働人口の増加に取り組むとともに、歩行者空間の確保や若者の転出超過の解消、子育てしやすい環境づくり、元気な高齢者の増加に取り組む。

公的不動産の活用策として、郊外移転した鉄道車両基地跡地を活用し、民間病院と統合した新たな県立病院や文化交流施設の整備を行うことで、都市機能の拡散防止と公共不動産の有効活用を図る。

まちづくりの経緯及び現況

◇姫路市西部に位置するJR網干駅は山陽本線の京阪神方面に向かう電車の始発駅であり、また駅北側に県道と久今宿線及び県道網干停車場線が通っており、姫路市西部の玄関口として、姫路市内のみならず隣接する太子町からも多くの住民が利用する地域交通の拠点となってきた。

◇しかしながら、駅南側には昭和50年代に駅前広場が整備されているものの、駅利用者半数以上が利用する駅北側には駅前広場が整備されておらず、道路や上下水道、都市ガスなどのライフライン施設が不足していることから、駅周辺は駅前商業地として有効な土地利用が図られていない状態である。駅周辺は平成30年に策定された姫路市立地適正化計画において都市機能誘導区域(地域生活拠点)に設定されているが、一定規模以上の商業施設や医療施設が存在していないなど、都市機能増進施設が不足している状態となっており、駅前広場の整備やライフライン施設の充実などにより都市機能増進施設の立地を誘導し、駅前商業地としての賑わいを創出することが求められている。

◇また、県道を含む駅周辺の道路は幅員が狭く、歩道も十分に整備されていない状態であり、自動車、自転車、歩行者が錯綜し、非常に危険な状態となっている。地区西側では現在、兵庫県が都市計画道路龍野線の整備を進めている。龍野線の開通により南北交通の円滑化が期待できるが、これに伴い駅周辺の自動車交通量が増加することが想定されることから、歩道や自転車通行帯の整備を土地区画整理事業による道路整備と併せて実施することにより安全・快適な歩行者空間・自転車走行空間を創出することが求められている。

課題

◇駅前広場の整備と道路、ライフライン施設の充実による地域核としての交通結節機能の充実

◇都市計画道路と自転車ネットワークの整備と土地区画整理事業の組み合わせによる歩行者を優先するまちづくりと安全で快適な自転車利用環境の創出

◇祭りなどの地域の伝統・文化に根差した特色ある地域づくり

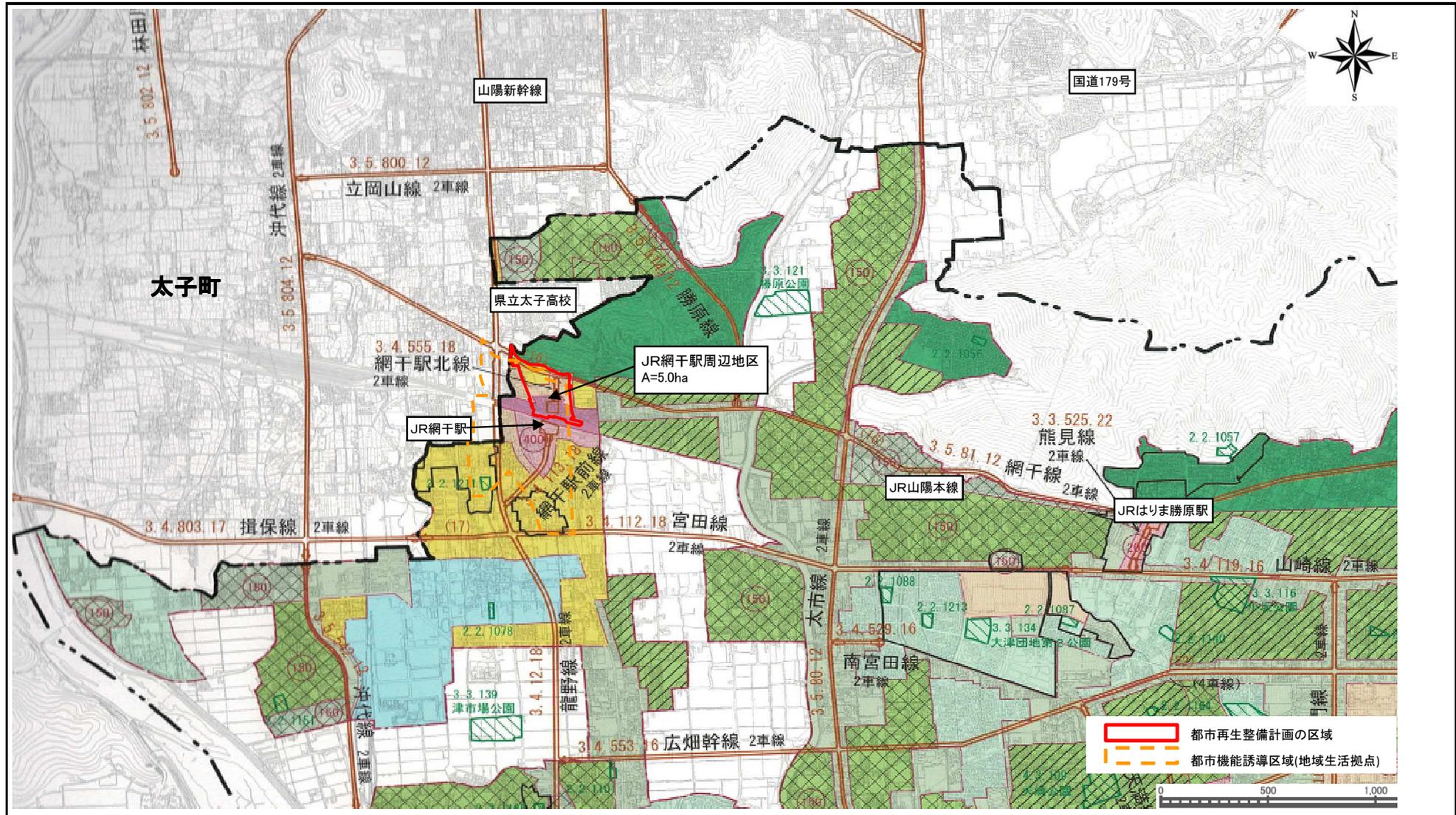
将来ビジョン(中長期)

◇『地域核として、鉄道駅を中心とし、地域の玄関口としての交通結節機能など日常生活を支える機能が充実した生活拠点とする』(姫路市総合計画 H21.3)

◇『駅周辺開発等を促進し、利便性の高い魅力的な駅前拠点の形成を目指し、歩行者のための安全な道路空間の確保や身近な自然とふれあえる緑豊かな都市空間の創出など、都市施設が整い快適で安心して暮らせる住宅市街地の形成を目指し、地域固有の伝統、文化を育む』(姫路市都市計画マスタープラン H27.3)

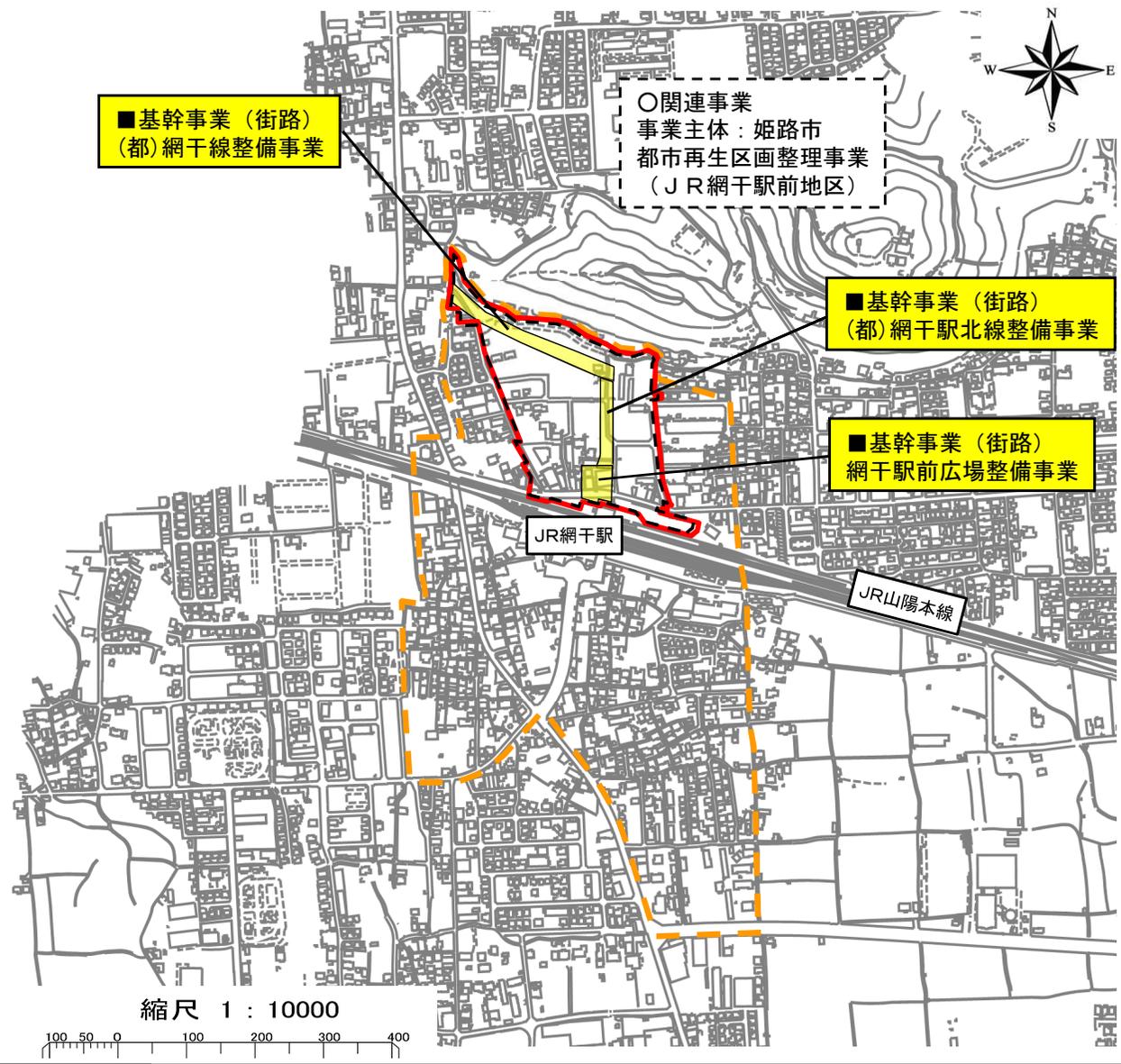
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>■整備方針1 利便性の高い魅力的な駅前交通結節点づくり ◇JR網干駅はJR山陽本線の京阪神方面に向かう電車の始発駅となっている姫路市西部の玄関口であり、1日に7,627人(H30年)の乗車人員が利用しているが、駅南側には駅前広場が整備されているものの、駅北側には駅前広場や道路、上下水道、都市ガスなどのライフライン施設が整備されていない状態であるため、駅前の商業地として有効な土地利用が図られていない状態である。 ◇JR網干駅周辺地区は立地適正化計画において都市機能誘導区域(地域生活拠点)に指定されていることから、土地区画整理事業と併せて駅前広場の整備やライフライン施設の充実により商業地としての土地利用増進と都市機能増進施設の誘導を図る。</p>	<p>■道路(基幹事業/網干駅前広場) ◇都市再生区画整理事業(関連事業/JR網干駅前地区)</p>
<p>■整備方針2 快適で安心して暮らせる、商業・住宅の調和したまちづくり ◇JR網干駅周辺は道路幅員が狭く歩道も十分に整備されておらず、自動車、自転車、歩行者が錯綜し非常に危険な状態であることから、都市計画道路網干線及び網干駅北線の整備により安全・安心で快適な歩行者空間の確保を図る。 ◇駅利用者の多くが自転車を利用し、駅周辺に多数の民間自転車駐輪場が存在することから、「姫路市自転車利用環境整備計画」により網干線及び網干駅北線は自転車ネットワーク路線に位置づけられている。計画にもとづいた整備により自動車・自転車・歩行者の通行空間を分離し、安全で快適な自転車通行空間の創出を図る。 ◇土地区画整理事業による区画道路の整備を合わせて行うことにより、地区全体での歩行者、自転車交通の安全性・快適性向上を図る。</p>	<p>■道路(基幹事業/都市計画道路網干線) ■道路(基幹事業/都市計画道路網干駅北線) ◇都市再生区画整理事業(関連事業/JR網干駅前地区)</p>
<p>■整備方針3 地域の伝統、文化を育む活力あるまちづくり ◇JR網干駅周辺を含む網干地区は地域の祭りが盛んな地区であり、秋祭りでは網干駅前で屋台の練り合わせなどが行われている。 ◇地域協議会とのワークショップなどにより地域の祭りなどに活用することを想定した駅前広場の整備を行うことにより、地域の伝統、文化を対外的に発信し、地域の活性化を目指す。</p>	<p>■道路(基幹事業/網干駅前広場) ◇都市再生区画整理事業(関連事業/JR網干駅前地区)</p>
<p>その他</p>	

JR網干駅周辺地区(兵庫県姫路市)	面積 5 ha	区域 網干区和久の一部
-------------------	------------	----------------



JR網干駅周辺地区(兵庫県姫路市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	大目標: 姫路市西部の玄関口にふさわしい、快適で賑わいあるJR網干駅周辺の再生	代表的な指標	1. JR網干駅乗車人員 (人/日)	7,627	(H27年度)	→	7,780	(R6年度)
	目標1: 利便性の高い魅力的な駅前の交通結節点づくり		2. 歩行者・自転車交通量(人/日)	2542	(H22年度)	→	2669	(R6年度)
	目標2: 快適で安心して暮らせる、商業・住宅の調和したまちづくり		3. 駅前でのイベント開催回数(回/年)	1	(R1年度)	→	2	(R6年度)
	目標3: 地域の伝統、文化を育む活力あるまちづくり							



凡 例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業